

## 第6学年3組 道徳科 学習指導案

令和2年11月25日(水) 第5校時

指導者 高野 賢治

第6年3組(於:6-3 教室)

### 本時の授業の視点

#### 視点1 考える必然性や切実感のある発問

○「かしの木の下で話し合ったことをロレンゾには黙っていたとき、三人はどんな気持ちだったのだろう。」を中心発問とし、互いに信じ合うことが大切であることに気付かせる。

#### 視点2 物事を多面的多角的に考えるための交流の在り方

○三人の中で自分の意見と同じものを選び、その根拠を交流させることで、多角的多面的に考えさせる。

#### 視点3 自己の生き方について考えることができる発問と振り返りの在り方

○終末に「ほんとうの友達とは、どんな友達だろう？」と授業の最初と同じ発問をし、自分の考え方の変容を振り返ることで、道徳的心情を育てる。

1 主題名 ほんとうの友達 (B-友情、信頼)

2 資料名 「ロレンゾの友達」

3 ねらい 三人のそれぞれの考え方のよさや問題点について話し合ったり、気持ちを心情バロメーターで表したりすることで、友達のことを考え、信頼しようとする道徳的心情を育てる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

児童にとって、友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育んでいこうとする心情を育てていきたい。

(2) 児童の実態について

本学級(男子16名、女子16名)には趣味や傾向を同じくする閉鎖的な仲間集団を作りたがり、ことあるごとに決まったグループで集まり行動を共にしなければ気が済まない風潮がある。そのようなグループの中には、表面上だけの付き合いをしている児童も見受けられる。そのため些細なことで疎外されたように感じたり、友達関係で悩んだりする児童が出てくることも予測で

きる。また、そのようなグループには属せず、友達との関係を築くことに苦手意識をもっている児童もいる。これらの実態から、相手のことを考えることや信頼することでより良い友達関係を築こうとする心情を育てたい。

### (3) 教材について

本資料は友情の在り方について、具体的な問題場面で考えられるように設定されており、どのように考えて行動することが、よりよい友情を育んでいけるのかを様々な観点から考えるのに適した教材である。三人の意見は異なっているが、友達を助けたいという気持ちは同じである。ロレンゾと再会したときに、かしの木の下で話し合ったことをロレンゾには黙っていた理由を考えることで、友達を信頼することのよさに気付かせたい。

### (4) 指導の工夫について

指導に当たっては次のことに留意したい。

指導に当たっては次のことに留意したい。

- ・導入部では、いつも遊んでいる友達とのことについて想起させることで、資料の内容に関心を持たせ、本時の課題（考えること）をつかませる。
- ・展開部で考えを交流させる場面において、赤白帽子を活用するなどして、それぞれの意見や考え方の同異について視覚的にとらえやすいようにする。また、三人の意見はそれぞれ異なるが、根底にはロレンゾのことを思っていることをおさえる。
- ・展開部では、「かしの木の下で話し合ったことをロレンゾには黙っていたとき、三人はどんな気持ちだったのだろう。」を中心発問とし、手紙をもらったときの予想の気持ちを「心情バロメーター」で表して比較することで、友達を信頼することの大切さに気付かせる。
- ・終末部では、導入部と同じことを問いかけ、ワークシートに記述させることで、授業の最初と最後に自分の考えが変わったことやふかまったことを振り返ることができるようにし、今後の生活における道徳的心情につなげたい。

5 学習指導過程

(1) ねらい 三人のそれぞれの考え方のよさや問題点について話し合ったり、気持ちを心情バロメーターで表したりすることで、友達のことを考え、信頼しようとする意欲や態度を養う。

(2) 準備 児童：教科書 教師：ワークシート、ロレンゾの手紙（タブレット）

(3) 展開

展開	学習活動・学習内容	教師の手だて (○) と評価 (◆)
つかむ	<p>1 本時の課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほんとうの友達がどんな友達か</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いっしょにいて楽しい。</li> <li>・仲よし。</li> </ul> </div>	<p>○授業前後の変容を見るためにワークシートに記入させる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>ほんとうの友達とは、どんな友達なのだろう。</p> </div>		
／ 深める	<p>2 教材文を読んで考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロレンゾからの手紙を読み、三人の気持ちを想像する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会うのが楽しみ。</li> <li>・どんな姿になっているだろう。</li> </ul> </div> <p>・ロレンゾが警察に追われていることを知り、手紙を読んだときの気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会いづらい</li> <li>・何をしたのだろう。</li> </ul> </div>	<p>○教科書を開かないまま手紙だけを提示することで、久しぶりの再会の喜びを捉えやすいようにする。</p> <p>○三人の気持ちを視覚的に捉えやすくするために、「心情バロメーター（楽しい⇔楽しくない）」で表す。</p> <p>○「会社の金を持ちにげたらしい」ことをおさえる。</p> <p>○三人の気持ちを心情バロメーターで表す。</p>
／ まとめる	<p>・かしの木の下で話し合ったことの中で、三人の中でどの意見を選ぶのかをワークシートにその理由とともに書き発表する。また、それぞれの意見のよさや問題点などを交流する。</p>	<p>○三人の意見を確認して板書に分かりやすく整理することで、三人のうちでどの意見が自分と同じか選択しやすくする。</p> <p>○どの意見を選んでいるのかが一目でわかるように赤白帽子を使う。赤・・・アンドレ 白・・・サバイユ 帽子をかぶらない・・・ニコライ</p> <p>○三人の意見の類似点や共通点を見つけることで、三人ともロレンゾのことを考えていることに気付かせる。</p>

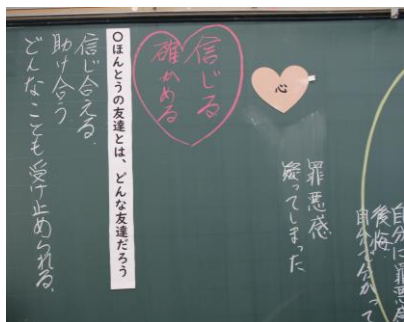
<p>「かしの木の下で話し合ったことをロレンゾには黙っていたとき、三人はどんな気持ちだったのだろう。」【中心発問】</p> <p>・ロレンゾに申し訳ない。 ・疑っていたことを知られたくない。 ・ロレンゾが傷つく。</p> <p>・「会社の金を持ちにげたらしい」 とうわさを聞いたときにどうすればよかったのかを考える。</p> <p>・うわさを信じない。 ・うわさではなくロレンゾを信じればよかった。 ・本人に確かめればよかった。</p> <p>ほんとうの友達とは、どんな友達だろう？</p> <p>・何でも安心して話せる。 ・信じてことができる。 ・悪いことは悪いと言ってくれる。</p> <p>3 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○心情バロメーターで三人の気持ちを表す。また、これまでの心情バロメーターを振り返り、再会を本当に喜ぶために何かが必要だったことに気付かせたい。</p> <p>○板書「会社の金を持ちにげたらしい」を見返すことで、三人ともうわさを真に受け、ロレンゾが罪を犯していることを前提に心配しており、友達として大切な信じるということを忘れていたことに気付かせる。</p> <p>○疑ってしまうこともあるかもしれないが、友達を信じぬくことも大切であることに触れる。</p> <p>○うわさを聞いたときにどうすればよかったのかを考えることで、信じて行動することの大切さに気付かせたい。</p> <p>○本時の最初と同じ発問をして、授業前と授業後の変容を感じさせる。</p> <p>◆友情を育むためには友達のことを考えることが大切だということが分かったか。 〈発言・ワークシート〉</p> <p>◆より良い友達関係を築くためには、互いに信じ合い行動することが大切であると気付いているか。 〈発言・ワークシート〉</p>
---	--

## 6 考察

### (1) 「視点1 考える必然性や切実感のある発問」について

中心発問について「かしの木の下で話し合ったことをロレンゾには黙っていたとき、三人はどんな気持ちだったのだろう。」と心情面から考えさせた。三人の気持ちが「とても楽しい」というレベルに達しないことを心情バロメーターで表すことで、気持ちの変化が視覚的に捉えられ、心から喜ばなかった原因を考える支援になり、信頼することの大切さに気付かせることができた。

今回は児童の実態に合わせ「互いに信じ合う」という価値に気付かせたいと考え、中心発問を心情面から考えさせたが、「なぜ黙っていたのか」と行動面から考えさせることで、本当の友達についての多様な価値に触れさせ、本時のねらいに迫ることができたのではないかと考える。



心情バロメーター



赤白帽子を活用した交流の様子

### (2) 「視点2 物事を多面的多角的に考えるための交流の在り方」について

三人の中で自分の意見と同じものを選び、その根拠を交流させることで、多面的多角的に考えさせた。それぞれの意見や考え方の同異について視覚的に捉えられやすいように赤白帽子を活用することで立場が明確となり、交流が円滑に行われたと思われる。交流の結果、同じ意見でも異なる根拠に触れることで、意見の深化がみられた。また、違う意見の人との交流では、反論も含めて思ったことを相手に返させることで、意見が変容する児童も見られた。

いつも同じ人と交流をするのであれば、様々な意見と出会うことにはつながらない。様々な意見と出会うには、様々な人と交流することが必要であり、そういう機会をつくることで、より多面的多角的に考えられるようになると思われる。普段の授業の中でそのような場面をより多く仕組み、自分にとって新しい価値や考えに出会える場の設定を工夫したい。

### (3) 「視点3 自己の生き方について考えることができる発問と振り返りの在り方」について

最初と最後に「ほんとうの友達とは、どんな友達だろう？」という同じ発問をすることで、自分の変容を実感させたいと考えた。授業前半の発問では「仲の良さ」を友達と考えている児童が多かったが、振り返りでは、うわさに振りまわされず、本人に確認したり、信じ合ったりすることを大切に思う児童が多く見られた。児童にとっては授業の前後の比較がしやすく、振り返りが容易になったと考えられる。また、振り返りについて「新しく気づいたこと、考えが変わったこと、これから大切にしたいことを書きましょう。」という視点を与えることで、児童が今後の生き方について考えやすくなったと思われる。

今回の題材では、最初と最後に同じ発問をすることで、自分の変容を実感させる振り返りを行った。しかし題材によっては最初と最後に同じ発問をすることが難しいものもある。そういった場合にはどのような視点を与えれば自己の変容がより実感できるのかを今後研究していきたい。